



「江戸しぐさ」の心と「品格」

年末、友人との話の中で「江戸しぐさ」という所作が話題になりました。

ある文献によると、その昔、江戸の町に住んでいた人たちが、毎日お互いに仲良く生活できるように気を遣いあった、生活上の「マナー」「エチケット」「振る舞い」「行動」というようなことです。昔の人々は、お天道様に対して、恥ずかしくないように行動することや、人様のおかげで物事が成り立っているという考えを規範とし、真心で接する人間関係を大切にしています。江戸では、互いに気を遣って生活するのが「粋」だと考えられていたようです。



いくつかの「江戸しぐさ」を紹介します。

肩ひき・蟹歩き	狭い道ですれ違う時のしぐさ。人で混んでいる所や狭い所ですれ違う時、お互いに肩がぶつからないように肩を引いて体を斜めにして通り過ぎるしぐさ
傘かしげ	雨の日にすれ違う時に、お互いの傘のしずくで相手を濡らさないように、互いに持っている傘を斜めに傾けるしぐさ
こぶし腰うかせ	船が出るのを待っている時、後から人が乗ってくる度にこぶしをついて腰を浮かせて席をつめる譲り合いのしぐさ
うかつあやまり	どちらかが失敗した時、「ごめんなさい」と謝るのに対して、「どういたしまして、こちらこそごめんなさい」と声をかけあうしぐさ
聞き上手	話を聞く時、相手の目をみて体を乗り出すように聞き、うんうんとうなずく。知っている話でも「知っている」とは言わずに興味深く聞こうとするしぐさ

いかがでしょうか？ 普段私たち大人が何気なくやっている所作も多くありそうです。共通しているのは、みんなが気持ちよく暮らすためのルール、マナーのようです。

一部には「江戸しぐさはなかった」という説もあります。ただ、その真偽は別として、上にあげた一つ一つの所作には意味があり、「相手への思いやり」「わたしも大切 あなたも大切」の心に通ずる表現であることは間違いありません。「江戸しぐさ」の精神は、自分のことだけでなく周囲を見回す余裕を持つことであり、互いに思いやる気持ちを形として外へ表すということです。

社会生活を送るうえで、他人に不快感を与えない振る舞いを身に付けることはとても大切なことです。いくら「自分は思いやりのある優しい人間だ」と思っている、それを形で表現しなければ気持ちは伝わりません。

それをいちいち考えて行うのではなく、おのずと体が反応するように子どもの時から習慣づけて体で覚えさせたいものです。時代は変わっても、大人も子どもも大切にしたい所作であり心構えです。その心構えが表に滲み出た雰囲気こそ「品格」です。

「江戸しぐさ」に代表される何気ない振る舞いは、本稿をお読みいただいている皆さん自身が子どもに伝え、その次の世代へとつないでいくべき、粋で素晴らしき伝統、「しぐさ」なのではないかと思えます。

津留小の子どもが高い品格を持った大人として成長することを祈り、願いつつ新しい年を迎えました。

今日は始業式。みんな揃って、元気に3学期のスタートを迎えられたことをうれしく思います。さて、学校への不審者の侵入等による犯罪を防止し、児童生徒の安全を確保することを目的に市立学校に「防犯カメラシステム」を設置することとなりました。本校は1月8日、9日に工事の予定です。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。